

平成 18 年度 大牟田市自然環境調査報告書

三池山調査



平成 19 年 3 月

大牟田市自然環境調査研究会
大牟田市環境部環境保全課

はじめに

自然環境は、人間を含むすべての生物にとって最も重要な生存基盤を構成する環境要素であり、多様な生態系を維持し、豊かな自然環境を地域の財産として、次世代へ引き継いでいくことが求められています。

本市では、平成 14 年度より快適環境都市を目指して「大牟田市環境基本計画」を施行し、自然環境の保全を重要な課題の一つと位置づけ、事業を推進しています。

自然環境調査は、本市の自然環境の現状や貴重な動植物等の生息状況を調査し、自然環境保全の基礎資料とするとともに市民の啓発に資するために行っています。

平成 18 年度は、三池山の調査を実施しました。

ここに調査結果を報告します。

目 次

1	調査の目的	1
2	調査概要	1
3	三池山の概要	2
4	現地調査	
(1)	春季調査	3
(2)	秋季調査	12
5	まとめ	19

1 調査の目的

三池山は、標高 388.1m、大牟田市で一番高い山であり、市民の登山者も多く、ふるさとの象徴となっている。この三池山では、近年、以前観られていた植物が、観られなくなっており、植生・植物、昆虫等を中心に自然環境調査を行うものである。

2 調査概要

○調査場所

三池山：乙宮林道終点～茶臼山（通称）～三池山頂～三池宮～普光寺に至る

○調査日時

植物が花をつける時期で、同定が行い易く昆虫も多い春季及び秋季に現地調査を行った

①春季調査：平成18年6月11日（日） 10時00分～15時30分 天候：くもり

②秋季調査：平成18年9月30日（土） 10時00分～15時30分 天候：晴れ

○調査内容

植生、昆虫を中心に自然環境の調査を行う

○調査員

- ・大牟田市自然環境調査研究会

専門分野	氏名	専門分野	氏名
生態系	白石 哲	鳥類	永江 和彦
地形・地質	古藤 文彦	爬虫類・両生類	松永 公幸
植生・植物	矢納 明子	昆虫類、水生生物	中嶋 秀利
ほ乳類	尾形 健二	海産生物（陸産貝類）	嶺井 久勝

- ・協力者：大牟田生物愛好会 黒岩展子、吉田日出子
- ・環境保全課職員：怡土朝幸、田口浩一、奥園光彦、實本昌秀

3 三池山の概要

三池山は標高 388 メートル、市内で一番高い山である。四季折々、私たちにさまざまな姿を見せてくれる。春になると、年末に野焼きされていた茶臼原の草原一面に若草が萌えてくる。1978 年から整備された生活環境保全林では、白いコブシの花や赤いヤブツバキ（大牟田市の花）が咲く。やがてスタジイやクスノキなどの新緑があざやかに全山を覆う。夏が来れば、クヌギ（大牟田市の木）の樹液を求めてカブトムシやクワガタムシが飛び交う。また、ホトトギス、オオルリ、サンコウチョウなどの夏鳥も毎年繁殖に渡ってくる。秋が訪れた遊歩道を行くと、アケビのおいしそうな実が樹間に見つかり、足元ではリンドウの可憐な花たちに出逢うこともある。冬の夜には、暗闇の中からフクロウの不気味な声が聞こえ、ムササビが木立の間を滑空し、タヌキが獣道を歩く。

三池山には、植物 906 種、野鳥 68 種、昆虫はアカスジキンカメムシ、トゲマグソコガネなどの珍種が見られ、多様性に富んだ自然が残されている。

スギ、ヒノキ、竹林などの林業資源も豊富だ。木材価格の低迷と労働力不足のため荒廃している山林が見受けられるのが残念だ。しかし、樹齢百年近い貴重なクスノキ群も見られる。「福岡県森林浴百選」にも選ばれ、市民には手頃なハイキングコースである。茶臼山からは阿蘇、雲仙、多良岳の眺望もよく、元旦には初日の出を拝む人も多い。三池山の地質は中生代の花崗岩で、白黒模様の岩があちこちで露出している。尾根を境に東側は熊本県南関町である。

三池宮にはツガニ伝説で有名な三つの池がある。玉姫様を襲う大蛇をツガニ^注（サワガニ）がハサミで三つに切り、その血が三つの池になったというもので、三池の地名の由来にもなっている。中世の豪族三池氏の山城の跡であることを物語る石垣が三池宮に現在も残されている。三池山は、水源の森、土砂流出防備保安林として、市民生活に大切な公益的機能を果たしている。市民の心のふるさととして、その緑を永遠に守っていきたい。

注 ツガニとは本来、モクズガニを指すが、ツガニ伝説のツガニはサワガニのことを言う

* 「大牟田の宝もの100選」（2002年大牟田市役所主査・主任会発行）より
（本文は、大牟田市自然環境調査研究会 松永公幸氏が執筆）

4 現地調査

(1) 春季調査

【地形・地質】

三池山は、主に大牟田地域の基盤をなす玉名花こう閃緑岩から成っている。玉名花こう閃緑岩の主要な鉱物成分は、斜長石、カリ長石、石英、角閃石、黒雲母であり、暗色包有物が含まれるという特徴を持つ。表層は風化を受けてマサ化しておることが多く、山麓部では風化帯は数十メートル厚に及ぶという。玉名花こう閃緑岩の年代は、K-Ar法で8700万年（河野・植木1966）と測定されている。

三池山頂（三角点設置地点）や三池宮などの山稜部には、大牟田地域の古第三系最下部である赤崎層群銀水層が点在している。これは、三池山西方に位置する、南北方向に伸びる米の山断層の活動により、断層東側が上昇したためこのような高所に銀水層が分布していると考えられている。三池山麓部には、約10万年前に噴出した阿蘇4火砕流堆積物が分布している。三池山東方～南方では強溶結の溶結度を呈する露頭が多く、弱い節理も見られる。

【植 物】

①乙宮林道終点～茶臼山

大牟田市自然環境調査報告書（平成13年6月）の植生・自然度表では、茶臼山は、牧草の採取地としての二次草原で、ススキ、ネザサ群落（自然度5）として位置づけられ、三池山系では特殊な自然環境を形成している。今回、希少種のノヒメユリ、ミノボロ、フシグロ、サイヨウシャジン等が確認された。しかし、消失が懸念されるハシナガヤマサギソウ、コキンバイザサは、確認ができなかった。

②茶臼山～三池山頂～三池宮～普光寺

茶臼山～三池宮の尾根筋は、北東側が熊本県南関町、南西側が大牟田市となる。熊本県側は自然林が伐採され、植林化が尾根近辺まで進んでいる。常緑または落葉広葉樹林（スダジイ、アラカシ、ミミズバイ、カクレミノ等）である尾根沿いの遊歩道脇にナンキンハゼ、タニウツギなどの外来種が植樹されるなど、自然生態系の人為的改変が進んでいる。かつて確認されていたオキナグサ（VU、県 EN）やツチグリ（県 VU）などを見当たらず、ツキヌキオトギリ（CR、県 EN）やトラノオズカケ（県 CR）等が若干生育しているのが確認できた。

春期の花々の開花が終り結実しかけた状況であったが、しだ植物13科31種、裸子植物2科2種、被子植物64科181種（双子葉類55科146種、単子葉類9科35種）合計79科214種を観察（同定）できた。温暖化や人為的改変による影響が心配されるが、まだ、多様な植物相がそろって残っていることが確認できた。

CR：環境省 RDB 絶滅危惧ⅠA類
VU：環境省 RDB 絶滅危惧Ⅱ類

県 CR：福岡県 RDB 絶滅危惧ⅠA類
県 VU：福岡県 RDB 絶滅危惧Ⅱ類
県 EN：福岡県 RDB 絶滅危惧ⅠB類

【確認（同定）できた植物】

NO. 1

記号 f：花が咲いていたもの 少：個体数が少ないもの 絶：絶滅危惧種（国、県）

科名	植物名	記号	科名	植物名	記号
【しだ植物】			くわ科	オオイタビ	
いわひば科	タチクラマゴケ			イタビカズラ	
ぜんまい科	ゼンマイ		いらくさ科	カラムシ	
ふさしだ科	カニクサ			イワガネ	
こばのいしかぐま科	イヌシダ			メヤブマオ	
	フモトシダ			コアカソ	
	ワラビ		びやくだん科	カナビキソウ	f
ほんぐうしだ科	ホラシノブ		たで科	シンミズヒキ	
ほうらいしだ科	イワガネソウ			イシミカワ	f
いのもとそう科	アマクサシダ			ミズヒキ	
	イノモトソウ		やまごぼう科	ヨウシュヤマゴボウ	f
ちゃせんしだ科	トラノオシダ		なでしこ科	ケフシグロ	f
ししがしら科	オオカグマ			フシグロ	f
おしだ科	イノデ		ひゆ科	イノコズチ	
	エンシュウカナワラビ		まつぶさ科	ビナンカズラ	
	オオイタチシダ		くすのき科	クスノキ	
	オオカナワラビ			シロダモ	
	オクマワラビ			キミノシロダモ	f少
	コバノカナワラビ			カゴノキ	
	サイゴクイノデ		きんぼうげ科	アキカラマツ	
	ナガバノイタチシダ			ウマノアシガタ	f
	ベニシダ			コバノボタンヅル	
ひめしだ科	コハシゴシダ			サラシナショウマ	
	ヒメワラビ		あけび科	ムベ	
	ホシダ			ミツバアケビ	
	ミヅシダ		つづらふじ科	アオツヅラフジ	
	ヤワラシダ		こしょう科	フウトウカズラ	少
いわでんだ科	シロヤマシダ		うまのすずくさ科	オオバウマノスズクサ	
	ヘラシダ		つばき科	ヤブツバキ	
うらぼし科	ノキシノブ		おとぎりそう科	ツキヌキオトギリ	f絶
	マメヅタ		あぶらな科	ヤマハタザオ	f少
	ミツデウラボシ		ゆきのした科	イワガラミ	
【裸子植物】				コガクウツギ	f
まつ科	アカマツ		ばら科	フユイチゴ	
いぬがや科	イヌガヤ			クサイチゴ	
【被子植物】双子葉類				ヒメバライチゴ	
ぶな科	ウバメガシ〔植栽〕			ミツバツチグリ	f
	クヌギ			ノイバラ	f
	アラカシ			キンミズヒキ	
にれ科	ケヤキ			オヘビイチゴ	
	エノキ			ダイコンソウ	
くわ科	イヌビワ			ヤブヘビイチゴ	
	ツルコウゾ	f	まめ科	メドハギ	

科名	植物名	記号	科名	植物名	記号
きく科	ヒキヨモギ		いね科	カモジグサ	f
	ノアザミ	f		イチゴツナギ	f
	コウゾリナ	f		ネザサ	
	オニタビラコ			タチカモジグサ	f
【被子植物】単子葉類				チガヤ	
ゆり科	ナルコユリ	f		ミノボロ	
	ノヒメユリ	少		シバ	
	ハウチャクソウ	f		ササクサ	
	ヤブラン			ヤマカモジグサ	
やまのいも科	オニユリ			ツクシスズメノカタビラ	
	オニドコロ			ヤマスズメノヒエ	
	カエデドコロ			チヂミザサ	
あやめ科	ヤマノイモ			シマスズメノヒエ	
	ニワゼキショウ	f		さといも科	マムシグサ
いぐさ科	シャガ			ムサシアブミ	f少
	スズメノヤリ	f		かやつりぐさ科	イヌクグ
つゆくさ科	クサイ	f	ジュズスゲ	f	
	ヤブミョウガ		マスクサ		
いね科	トボシガラ		シラスゲ	f	
	ヌカボ	f	しょうが科	ハナミョウガ	f



オカトラノオ



ハエトクワ



ハナミョウガ



クマノミズキ



ツキヌキオトギリ

ツキヌキオトギリ

絶滅危惧 I A 類（環境省）、絶滅危惧 I B 類（福岡県）

多年草。茎は2-3本そう生し、高さ20-100cm、直立し、上部で分枝し、円柱形で稜線はない。葉は卵状長楕円形、長さ3-6.5cm、向かい合う葉は、基部で広く合着する。花は、茎と枝の先に集散花序をなし、花弁は楕円形、長さ6.5-7mm。花期が早く、6-7月頃に花がさく。

【野鳥】

三池山では、夏鳥 11 種、冬鳥 12 種、留鳥 40 種の 63 種類の野鳥が野鳥の会により確認されているが、今回は調査ルートに沿って次の 11 種が確認できた。

1. 乙宮林道終点～茶臼山（4 種）

ウグイス、ハシブトガラス、イワツバメ、ホオジロ
（普段聞かれるホトトギスが聞かれなかった）



ウグイス

2. 茶臼山～三池宮～普光寺（7 種）

シジュウカラ、ヤマガラ、メジロ、コゲラ、ツバメ、スズメ、ヒヨドリ

（参考）平成 18 年 6 月 4 日（日）実施の自然観察会では 22 種が確認された

アオゲラ	アオバト	イワツバメ	ウグイス
エナガ	オオタカ	カササギ	カワラヒワ
キビタキ	キジバト	コゲラ	シジュウカラ
スズメ	ツバメ	ハシブトガラス	ハシボソガラス
ヒヨドリ	ホオジロ	ホトトギス	メジロ
ヤマガラ	サンコウチョウ		

【爬虫類・両生類】

三池山ではヘビ、トカゲ、カエルなどの爬虫類・両生類の生息が想定されたが、今回の調査では 4 種の生息が確認された。

ジムグリ（有鱗目ヘビ亜目ナミヘビ科ナメラ属）

登山道をきれいな模様のジムグリが横切り、枯れ木の中へ姿を消した。



ジムグリ

カナヘビ（有鱗目カナヘビ科）

樹高 1 m のアオキの葉の上で、カナヘビがまどろんでいた。

（名前はヘビだが普通に見られるトカゲで、木登りがうまい。水の中で見かけたらワニの子どもと見間違えうだろう。）



カナヘビ

ニホンヒキガエル（カエル目ヒキガエル科）

この春に生まれたと思われるまだ小さな仔蛙が、乙宮林道終点の側溝にいた。辺りに池や川は無い。どこでオタマジャクシになったのだろうと探すと近くに防火用水があり、満々と水を貯えており、ここで産卵したのだと思われる。



ニホンヒキガエル

ニホンアマガエル（カエル目アマガエル科）

妙心寺の水場で、「ギャギャギャギャ」とアマガエルの鳴く声が木立の中から聞こえた。



ニホンアマガエル

【昆虫類及びその他】

三池山には、多種多数の昆虫たちが生息しているが、今回は次の昆虫類等が確認された。

科目名	和名	科目名	和名
【昆虫類】			
コウチュウ目コガネムシ科	マメコガネ コアオハナムグリ	バッタ目イナゴ科 バッタ目ササキリ科 バッタ目 ヒシバッタ科 バッタ目キリギリス科	ツチイナゴ ササキリ ヒシバッタ ウマオイ キリギリス ツユムシ
コウチュウ目オトシブミ科	オトシブミ	ハチ目 スズメバチ科	オオスズメバチ
コウチュウ目センチコガネ科	センチコガネ	シリアゲムシ目シリアゲムシ科	シリアゲムシ
コウチュウ目ゾウムシ科	シロコブゾウムシ	ナナフシ目	ナナフシ
コウチュウ目カミキリムシ科	ベニカミキリ ラミーカミキリ	カマキリ目	カマキリ
コウチュウ目シデムシ科	シデムシ	カメムシ目ヨコバイ科	ツマグロヨコバイ
コウチュウ目コメツキムシ科	コメツキムシ	【その他】	
チョウ目 シジミチョウ科	ベニシジミ	クモ目アシダカグモ科	アシダカグモ
チョウ目セセリチョウ科	イチモンジセセリチョウ	クモ目タナグモ科	クサグモ
チョウ目アゲハチョウ科	アゲハ キアゲハ	クモ目コガネグモ科	ゴミグモ
チョウ目タテハチョウ科	ツマグロヒョウモン		

(参考) 平成18年6月4日(日) 実施の自然観察会で確認された生き物

【爬虫類】 2種 ヤモリ カナヘビ	【昆虫類、その他】 11種 オバボタル ラミーカミキリ ハンミョウ ヒゲナガカミキリ アオスジアゲハ	チャドクガ アシダカキンバエ サシガメ ネコハエトリグモ トタテグモ サワガニ
【両生類】 3種 ツチガエル ニホンアカガエル ニホンアマガエル		



キリギリス



オバボタル



オジロアシナガゾウムシ



ツマグロヨコバイ



ラミーカミキリ



ナキイナゴ

【陸産貝類】

三池山系には、陸棲の貝が生息している。今回の調査では次の3種が確認された。

科名	和名	確認場所
オナジマイマイ科	ツクシマイマイ	茶臼山、三池宮、普光寺
ヤマタニシ科	ヤマタニシ	普光寺
キセルガイ科	(キセルガイの一種)	三池宮

・和名：ヤマタニシ 準絶滅危惧種（福岡県 RDB）

生態・生息状況：本種はかつては県内各地で見られたが、近年は生息地、個体数とも減少している。林の中の落ち葉の下に生息。殻は殻高2cm程度。円錐形で、螺層はよく膨らむ。殻表は淡褐色で、細かく途切れた濃褐色帯がある。蓋は円形で角質。



ヤマタニシ



和名：ツクシマイマイ



キセルガイの一種

福岡県の陸産貝類の種名目録を次表（表-1）に示すが、大牟田市には60種類の陸産貝類が棲んでいると推定される。

[参考とした文献・資料]

図鑑：黒田・波部 1965 新日本図鑑〔中〕北隆館

東正雄 1982 原色日本陸産貝類図鑑 保育社

報告書：高橋五郎・岡本正豊 1969 福岡県産貝類目録 自費出版

魚住賢司 2000 陸産・淡水産貝類 福岡県自然環境調査報告書 福岡町

松隈明彦 2001 陸・淡水産貝類 福岡県の希少野生生物 福岡県

魚住賢司 2004 陸産貝類 古賀市自然環境調査報告書 古賀市

[福岡県の陸産貝類の種名目録]

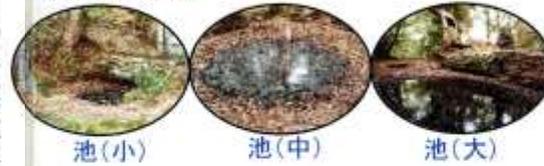
(表-1)

【ゴマオカタニシ科】 ゴマオカタニシ	シリオレギセル ピルスブリギセル	ヒゼンキビ キビガイ ヒメベッコウ ヤクヒメベッコウ タネガシマヒメベッコウ コシダカシタラカイ カサネシタラ ウメムラシタラガイ マルシタラガイ カドヒメベッコウ ツノイロヒメベッコウ テラマチベッコウ ウラジロベッコウ タカハシベッコウ キヌツヤベッコウ レンズガイ
【ヤマキサゴ科】 ヤマキサゴ	ブンゴギセル アメイロギセル	
【ヤマタニシ科】 ヤマタニシ サドヤマトガイ ヤマクルマガイ アツブタガイ ミジンヤマタニシ	クロギセル ナミギセル キュウシュウナミコギセル シイボルトコギセル ヒロクチコギセル オキギセル	
【アズキガイ科】 アズキガイ	スグヒダギセル シリオレギセル	
【ムシオイガイ科】 ピルスプリムシオイガイ ハリマムシオイガイ ミヤザキムシオイガイ	【オカクチレガイ科】 オカチヨウジガイ ホソオカチヨウジガイ トクサオカチヨウジガイ マルオカチヨウジガイ サツマオカチヨウジガイ	
【ゴマガイ科】 ヒダリマキゴマガイ チクシゴマガイ キュウシュウゴマガイ	【パツラマイマイ科】 カトウナタネ	【ナンバンマイマイ科】 コベソマイマイ シメクチマイマイ ナカヤママイマイ ケハダビロウドマイマイ
【オカモノアラガイ科】 ナガオカモノアラガイ ヒメオカモノアラガイ	クルマナタネ ツクシナタネ ハリマナタネ	【オナジマイマイ科】 フリイデルマイマイ チクヤケマイマイ マメマイマイ ヒラドオトメマイマイ イロアセオトメマイマイ キュウシュウシロマイマイ ソメワケシロマイマイ ベッコウオナジマイマイ オナジマイマイ ウスカワマイマイ ツクシマイマイ ツシマケマイマイ ヒゼンオトメマイマイ カタマメマイマイ コハクオナジマイマイ
【スナガイ科】 キバサナギガイ スナガイ クチマガリスナガイ	【コハクガイ科】 コハクガイ	
【ミジンマイマイ科】 ミジンマイマイ マルナタネガイ ヒラドマルナタネガイ	【ナメクジ科】 ナメクジ ヤマナメクジ	
【キセルガイモドキ科】 キセルガイモドキ イキキセルガイモドキ	【コウラナメクジ科】 キイロナメクジ ヤマコウラナメクジ	
【キセルガイ科】 ツシマギセル チサギギセル ナガトギセル キュウシュウギセル ミゾシタギセル チビギセル	【ベッコウマイマイ科】 ツシマナガキビ タカキビ カサキビ ヒメカサキビ シコクギセル ハルマキビ タカハシキビ キバキビガイ ツクシキビ	【ネジレガイ科】 タワラガイ

6月調査コース：乙宮林道終点～茶臼山～三池山頂～三池宮～普光寺
(赤の矢印で示す)



三池宮の三つの池



・写真番号は、図中の番号を表す



コース中で確認された生きもの等



(2) 秋季調査

秋季調査は三池山（特に茶臼山）の草地の植生調査を主目的とした。

平成18年9月30日（土） 10時00分～15時30分 天候：晴れ

【植 物】

- ① 調査場所（観察場所） 乙宮林道～茶臼山一带
三池山頂～普光寺

② 植生・植物の状況

茶臼山では、ネザサ、カヤ類、ヨモギ等の繁茂により、十分な調査活動が不可能で、時間も不足し、樹木・シダ類を省略し、花のあるものを主として記録した。しかし、「大牟田の野生植物」（2003年大牟田生物愛好会発行）の三池山植物リストに記載されていない7品種（エンシュウカナワラビ、アイノコミズヒキ、ツクシハギ、ハイメドハギ、イモネノホシアサガオ、イガホウヅキ、アイナエ）を確認することができた。

③ 確認できた植物

しだ植物9科17種、裸子植物2科2種、被子植物57科166種（双子葉類49科121種、単子葉類8科45種）合計68科185種であった。



アイエ



アイノコミズヒキ



イモネノホシアサガオ



イガホウヅキ

確認（同定）できた植物

NO. 1

記号 f：花が咲いていたもの

s：実

少：個体数が少ないもの

絶：絶滅危惧種（国、県）

N：新しくリストアップ

科名	植物名	記号	科名	植物名	記号
【しだ植物】			きんぼうげ科	オオバショウマ	s 少
とくさ科	スギナ			サラシナショウマ	s
ぜんまい科	ゼンマイ			ボタンヅル	s
うらじろ科	コシダ			アキカラマツ	s
	ウラジロ		くすのき科	カゴノキ	
ふさしだ科	カニクサ		つばき科	ヤブツバキ	s
こばのいしかぐま科	フモトシダ		つづらふじ科	アオツヅラフジ	
	イシカグマ		けし科	フウロケマン	s 少
	ワラビ		うまのすずくさ科	サンヨウアオイ	
ほんぐうしだ科	ホラシノブ		まめ科	クサネム	fs
ししがしら科	オオカグマ			ネムノキ	
おしだ科	ホソバカナワラビ			カワラケツメイ	s
	コバノカナワラビ			シバハギ	f 少
	エンシュウカナワラビ	N		アレチヌスビトハギ	fs
	オクマワラビ			ヌスビトハギ	fs
	イノデ			ノアズキ	fs
	サイゴクイノデ			コマツナギ	f
うらぼし科	ノキシノブ			ヤハズソウ	
【裸子植物】				ヤマハギ	
まつ科	アカマツ			メドハギ	f
いぬがや科	イヌガヤ			ネコハギ	
【被子植物】 双子葉類				ニシキハギ	
やまもも科	ヤマモモ			クズ	
にれ科	ムクノキ			ツクシハギ	fN
くわ科	クワクサ			ハイメドハギ	fN
	イヌビワ		おとぎりそう科	オトギリソウ	s
	ヒメイタビ	少	にしきぎ科	コマユミ	s
いらくさ科	カラムシ	s		マユミ	s
	キミズ	s	ばら科	キンミズヒキ	f
やまもがし科	ヤマモガシ		ぶどう科	ノブドウ	s
びやくだん科	カナビキノウ	s		ヤブガラシ	s
たで科	ミズヒキ	f	かたばみ科	カタバミ	f
	シンミズヒキ	f	うり科	カラスウリ	s
	イヌタデ	f	ふうろそう科	ゲンノショウコ	f
	ハナタデ	f	うこぎ科	オカウコギ	
	ママコノシリヌグイ	f		ウド	
	アイノコミズヒキ	fN 少		カクレミノ	
やまごぼう科	ヨウシュヤマゴボウ	s		ヤツデ	
ひゆ科	イノコヅチ	s		キヅタ	
	ヒナタイノコヅチ	s	とうだいぐさ科	エノキグサ	s
なでしこ科	カワラナデシコ	s		アカメガシワ	
	ウシハコベ	fs	やぶこうじ科	ツルコウジ	

科名	植物名	記号	科名	植物名	記号
やぶこうじ科	イズセンリョウ		きく科	センダングサ	f
みかん科	カラスザンショウ			ヤブタバコ	f
	イヌザンショウ			アメリカセンダングサ	s
きょうちくとう科	テイカカズラ			コシロノセンダングサ	f
あわぶき科	ヤマビワ	s		ベニバナボロギク	f
あかね科	ヨツバムグラ			ダンドボロギク	f
	ヘクソカズラ	s		ヒヨドリバナ	f
	アカネ			サケバヒヨドリ	f
くろうめもどき科	ネコノチチ			サワヒヨドリ	f
くまつづら科	クサギ			ヨメナ	f
	ハマクサギ			アキノノゲシ	f
	アレチハナガサ	fs		セイタカアワダチソウ	
すみれ科	タチツボスミレ			ヤクシソウ	
しそ科	イヌコウジュ			オニタビラコ	f
	レモンエゴマ	f	【単子葉類】		
	ヤマハツカ	f	ゆり科	ホウチャクソウ	s
	アキノタムラソウ	f		ノヒメユリ	s
あかばな科	ミズタマソウ	s		ウバユリ	s
	アレチマツヨイグサ	s		ヤブラン	f
ごまのはぐさ科	トラノオスズカケ	f絶		ジャノヒゲ	
せり科	ミツバ			ナガバジャノヒゲ	
	ウマノミツバ			シオデ	
はえどくそう科	ハエドクソウ	s		アマドコロ	s
さくらそう科	ミヤマタゴボウ	s		ツルボ	f
	オカトラノオ	s		サルトリイバラ	s
すいかずら科	ソクズ		ひがんばん科	ヒガンバナ	f
	サンゴジュ		やまのいも科	ヤマノイモ	s
ががいも科	キジョラン			トコロ	
ききょう科	サイヨウシャジン	f	あやめ科	ヒオウギ	
	ツルニンジン	s	つゆくさ科	ツユクサ	f
ひるがお科	イモネノホシアサガオ	fN少		ヤブミョウガ	s
なす科	ヒヨドリジョウゴ	s	いね科	トダシバ	s
	イガハウスギ	sN少		オガルカヤ	s
	オオイヌハウスギ	s		ウシクサ	s
きつねのまご科	オギノツメ			コメヒシバ	
	キツネノマゴ	f		アキメヒシバ	
	シロバナキツネノマゴ	f		ササクサ	s
ふじうつぎ科	アイナエ	fN少		トウササクサ	s
おみなえし科	オトコエシ	f		ススキ	
きく科	ノブキ	f		ケチジミザサ	s
	ヌマダイコン	f		チジミザサ	s
	ヒメヨモギ	f		ヌカキビ	s
	オトコヨモギ	f		シマスズメノヒエ	s
	ヨモギ			チカラシバ	s
	シラヤマギク	f		マダケ	

科名	植物名	記号	科名	植物名	記号
いね科	ハチク	少 s s 少 少	いね科	メガルカヤ	s s絶
	モウソウチク		さといも科	ムサシアブミ	
	ネザサ		かやつりぐさ科	イトテンツキ	
	イヌアワ		クグ	ナキリスゲ	
	コツブキンエノコロ		ヒメモエギスゲ	カヤツリグサ	
	キンエノコロ				
	モロコシガヤ				
ネズミノオ					



モロコシガヤ



オハシヨウマ



レモンエゴマ



ツボ



イトテンツキ

イトテンツキ：絶滅危惧Ⅱ類（環境省）

平地の日当りのよい荒地に生える1年草。茎は糸状で多数つき、高さ5-30cm、葉は茎よりも細く短い。イトハナビテンツキと似るが、花序が頭状に短縮。



トラノオズカケ

トラノオズカケ：絶滅危惧ⅠA類（福岡県）

茎の長さ70~150cmの地面をはうつる性の多年草。葉は互生し、卵形または長楕円状卵形。両面無毛で、裏面は紫色を帯びる。花期は8~9月。花は紅紫色で、葉腋に短い円錐状の花序をつける。

【陸産貝類】1種

オナジマイマイ科 ツクシマイマイ

【爬虫類】2種

トカゲ、カナヘビ

【昆虫類及びその他】25種

科目名	和名	科目名	和名
【昆虫類】			
コウチュウ目タマムシ科	タマムシ	バッタ目キリギリス科	クツワムシ
チョウ目タテハチョウ科	アカタテハ		ウマオイ
	ツマグロヒョウモンチョウ	バッタ目コオロギ科	キリギリス
	アサギマダラ	バッタ目マツムシ科	アオマツムシ
	メスアカムラサキ	ハチ目ベッコウバチ科	マツムシ
チョウ目ヤガ科	フクラスズメ(幼虫)	シリアゲムシ目シリアゲムシ科	オオモンクロベッコウ
バッタ目バッタ科	ショウリョウバッタ	カメムシ目ヨコバイ科	シリアゲムシ
	ショウリョウバッタモドキ	【その他】	ツマグロオオヨコバイ
	トノサマバッタ	クモ目コガネグモ科	コガネグモ
バッタ目イナゴ科	ツチイナゴ		ナガコガネグモ
	ミヤマフキバッタ	クモ目アシナガグモ科	ジョロウグモ
バッタ目キリギリス科	ササキリ	ナガミズ目フトミズ科	シーボルトミズ
	クサキリ		

茶臼山の草原には多くの生きものが生息している



メスアカムラサキ



ショウリョウバッタモドキを捕えたカガコグモ



マツムシ(♀)



アサギマダラ

アサギマダラ：春に北上し、長距離を移動することで有名な蝶である。中には直線距離で1500km以上移動した個体があるとのこと。あまり羽ばたかずふわふわと飛ぶ姿はとても優雅である。



キジョラン

キジョラン(鬼女蘭)：アサギマダラの幼虫の食草で、幼虫は丸く食べるのが特徴。長い白毛をもつ種子を鬼女の髪と見立てて名がついている。

【哺乳類】3種

テン、イタチ類、イノシシ



テンのものと思われるフン
(直径1cmほど)



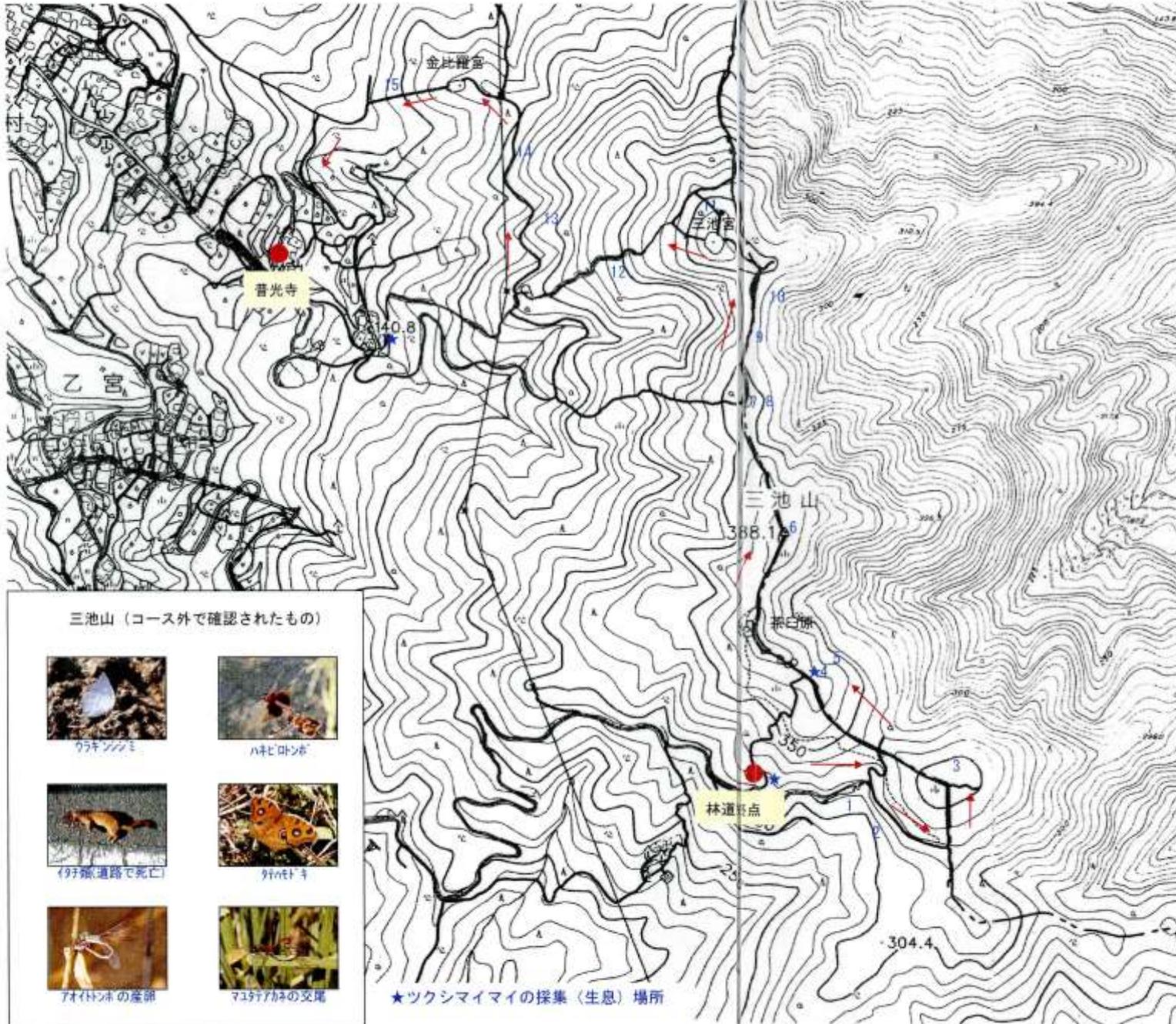
イタチ類*のものと思われるフン
(テンのフンより細い)

(*日本産のイタチと外来種のチョウセンイタチの区別がつかないのでイタチ類と表記している)



イノシシの足跡

9月調査コース:乙宮林道終点～茶臼山～三池宮～金比羅宮～普光寺
(赤の矢印で示す)



・写真番号は、図中の番号を表す



1 イモメノホノサガオ



9 カラスグサ



2 テンのもと
思われるフン



10 ヒトリシツコ



3 茶臼山を望む



11 池(大)



4 木の板



12 キンヨシ



5 トックハチの黒



13 レモンコマ



6 三池山頂



7 キクガ



14 オオハシコマ



8 マスガ



15 竹林

三池山 (コース外で確認されたもの)



9 クラキソノミ



10 ハネビロコ



11 97号(道路で死亡)



12 シロトキ



13 7月イトハの産卵



14 マコサアゲの交尾

★ツクシマイマイの採集(生息)場所

5 まとめ

三池山における2回(6月、9月)の自然環境調査で、三池山の全容を把握することは無理であるが、今回の調査及び最近における知見を交えてまとめとする。

茶臼山は、大牟田市内では唯一、市民の手で草刈、野焼きが行われ維持管理されてきたススキ、ネザサを中心とした典型的な草原環境である。そのような特殊な自然環境が永年維持されてきたからこそ、草原環境に特徴的な植物や昆虫類が生息確認されていた。その代表的な昆虫が、8月下旬から9月にかけて茶臼山一帯に広がるススキ草原だけで見られていたジャノメチョウである。しかし、今回も、残念ながら生息確認には至らなかった。

一方、本来生息していない南方系の迷チョウであるメスアカムラサキが山頂周辺を飛翔するのを確認できた。同じく9月から10月にかけて三池山では、逆に南方に渡り移動をすると言われているアサギマダラが集結し移動するのをよく見かけるようになる。三池山で発生するアサギマダラは、ガガイモ科のキジョランの葉を食草としている。しかし、餌としているキジョランが、ツル性植物であるためか、有害不要と判断され人為的に刈り取られ激減している。

茶臼山～三池山～三池宮の尾根沿いには、自然植生に反する植栽が行われている。アメリカハナミズキ、ナンキンハゼ、マサキ、ニシキギ、ナンテンなどの園芸、造園樹種が1m位の間隔で植栽され、電波中継塔が立っている茶臼山の尾根筋には高木になるケヤキ、ニレなどが点々と植えられかなり成長しつつある。

普光寺の石段横の沢は、水の流れがまったく無くなり、サワガニやアメンボなどが多数群れて見られた昔の面影が無くなってしまっている。水流の枯渇の要因としては、基本的には三池山における森林植物相の変遷にある。モウソウチク林の侵出拡大などにより保水機能を備えた常緑及び落葉照葉樹の森が荒廃し、元来、水はけの良い風化砂岩層を降雨が一気に流してしまっているためと思われる。このような状況の一方で、普光寺周辺では竹林整備として、山の保水機能の維持に必要なエノキ、ムク、タブ、ウラジロガシなどを伐採し、アジサイガーデン造りが進められている。

三池山の荒廃が一因と思われるが、最近、エサを求めてイノシシが里地に現れるのをよく耳にする。哺乳類は、ほとんどが夜行性であるため、人の目に触れることが少なく、今回の調査でもテンやイタチ類、イノシシの存在がフンや足跡から伺えるのみであった。

今回の調査において、三池山には豊かな自然が残され、多様な植物相等が見られる一方で、竹林の侵出をはじめ、温暖化や人為的改変により憂慮すべき自然の環境変化が進んでいることも判明した。三池山本来の植物相(在来種)を尊重し、著しく逸脱した植栽や伐採整備を見直していかなければ、豊かな自然植生が残されている郷土の三池山が造園的感覚の園芸種であふれる都市部と同様な植生景観に陥ってしまう恐れが考えられる。わずか1

種類の植物（生物）の増減が、植生全体の繁栄もしくは消滅につながり、その植生環境に依存して生活している昆虫などの小生物、両生類、爬虫類、野鳥、哺乳類の繁栄に少なからず影響を与える。

自然豊かな三池山を保全していくためには、竹林の侵出防止対策とともに、市民の植栽事業や環境整備等において、自然を保護する正しい知識を広めることが必要かつ重要である。

【参考とした文献・資料】

(1) 大牟田市自然環境調査報告書

平成 13 年 6 月 大牟田市自然環境調査研究会

(2) おおむたの宝物 100 選 大牟田市役所主査・主任会編

(3) 福岡県の希少野生生物（福岡県レッドデータブック 2001）平成 13 年 3 月 福岡県

(4) 改定・日本の絶滅のおそれのある野生生物—植物 I（維管束植物）2000 環境省

大牟田市自然環境調査研究会

大牟田市における自然環境の調査、研究等を行い、専門的な見地から助言等を行う、市長の委嘱を受けた機関です

〒836-8666 大牟田市有明町2丁目3番地
TEL : 0944 (41) 2721 FAX : 0944 (41) 2722
E-mail : kankyuhozen01@city.omuta.fukuoka.jp

編集／大牟田市環境部環境保全課
発行／平成19年3月